

OKエコブロック協会

2社入会し12社体制に

総会開催



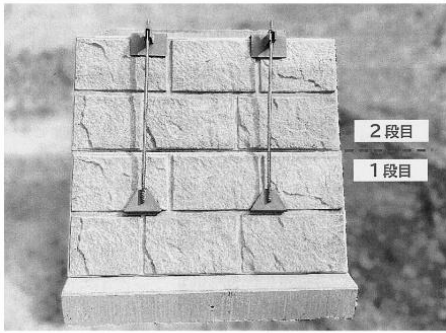
大池会長

OKエコブロック協会（会長＝大池健一氏）は11月27日、品川プリンスホテルNタワー（東京都品川区）で第2回総会を開催した。総会では平成7年度事業計画案・予算案を原案どおり可決承認した。同工業会には新たに池永セメント工業所（大分県）と小倉セメント製品工業（福岡県）の2社が入会し、会員社は12社となった。

総会の開催にあたり挨拶した大池会長は、大型ブロック積み擁壁「OKエコブロック」の開発経緯と普及状況を振り返り、「OKエコブロックは1㎡サイズの大型ブロック積み擁壁として、2015年頃から開発に着手した。当時はすでに同サイズの別商品を提供していたが、販売が伸び悩んでいたことから、他社製品との競争力を高める必要があった。2017年から販売を開始し、2018年には新たに池永セメント工業所（大分県）と小倉セメント製品工業（福岡県）の2社は同製品の分権開始も始めた。施工実績の拡大と共に、製品への評価も高まり、現在同社を含む12社が加盟する協会組織へと発展している。

当社が運営する協会として、大池会長は、大型ブロック積み擁壁「OKエコブロック」の開発経緯と普及状況を振り返り、「OKエコブロックは1㎡サイズの大型ブロック積み擁壁として、2015年頃から開発に着手した。当時はすでに同サイズの別商品を提供していたが、販売が伸び悩んでいたことから、他社製品との競争力を高める必要があった。2017年から販売を開始し、2018年には新たに池永セメント工業所（大分県）と小倉セメント製品工業（福岡県）の2社は同製品の分権開始も始めた。施工実績の拡大と共に、製品への評価も高まり、現在同社を含む12社が加盟する協会組織へと発展している。

OKエコブロックの2024年度の施工実績は1万7554㎡（99件）で、今年度は現時点で1万349㎡（77件）。23年からの累計では6万78㎡（415件）となっている。



OKエコブロック治具の設置状況

この他にも総会では、オライケが新たに開発した「OKエコブロック治具」を紹介した。胴込めコンクリート打設時の浮き防止と転倒防止を目的に開発したもので、上段ブロック天端に掛ける押さえ金具（治具A）と、下段ブロックに引っ掛ける固定金具（治具B）を連結、ナットで締め付けて上下2段のブロックを挟み込むことで自立性を確保する。ブロックを背面から施工効率が向上する。近日中に試験施工を計画しており、会員社への供給も予定している。

この他にも総会では、オライケが新たに開発した「OKエコブロック治具」を紹介した。胴込めコンクリート打設時の浮き防止と転倒防止を目的に開発したもので、上段ブロック天端に掛ける押さえ金具（治具A）と、下段ブロックに引っ掛ける固定金具（治具B）を連結、ナットで締め付けて上下2段のブロックを挟み込むことで自立性を確保する。ブロックを背面から施工効率が向上する。近日中に試験施工を計画しており、会員社への供給も予定している。

【千葉県】今年度は災害復興工事が少ない状況にあるが、4000㎡程度の出荷を見込んでいる。

【岐阜県】災害復興工事で、従来の間知ブロックから変更して採用されるケースが増加。リピーターも多く、積み手不足の中で施工性の良さが評価されている。

【大分県】災害復興工事が多い地域で、河川関連の製品需要が中心。従来は0.5㎡サイズを製造していたが、施工効率の良い大型製品の必要性を感じて導入を決めた。道路工事では、谷積みが可能で製品が条件として求められ、課題となっている。

【福岡県】間知ブロックの当・安田）まで。

【広島県】積みブロック職人の減少を背景に、ブロック大型化の流れを踏まえて入会を決めた。実績はまだ多くないものの、納入先からの評価は高い。

【福井県】豪雨災害関連需要が落ち着いたことで災害復旧需要は終了し、共販により、裏型枠付きで施工性の良いブロックとして採用が進んでいる。

【千葉県】今年度は災害復興工事が少ない状況にあるが、4000㎡程度の出荷を見込んでいる。

【岐阜県】災害復興工事で、従来の間知ブロックから変更して採用されるケースが増加。リピーターも多く、積み手不足の中で施工性の良さが評価されている。

【大分県】災害復興工事が多い地域で、河川関連の製品需要が中心。従来は0.5㎡サイズを製造していたが、施工効率の良い大型製品の必要性を感じて導入を決めた。道路工事では、谷積みが可能で製品が条件として求められ、課題となっている。

【福岡県】間知ブロックの当・安田）まで。

【広島県】積みブロック職人の減少を背景に、ブロック大型化の流れを踏まえて入会を決めた。実績はまだ多くないものの、納入先からの評価は高い。

【福井県】豪雨災害関連需要が落ち着いたことで災害復旧需要は終了し、共販により、裏型枠付きで施工性の良いブロックとして採用が進んでいる。

栃木県防草ブロック工業会が総会開催



杉山会長

栃木県防草ブロック工業会（会長＝杉山氏）は11月28日、マイステイズ宇都宮（栃木県宇都宮市）で第9回総会を開催した。総会では令和6年度活動報告・収支報告、令和7年度活動計画・予算案を原案通り承認した。

杉山会長は挨拶し、工業会の活動状況を振り返り「県内土木事務所等を対象にしたキャラバン活動を通じて、防草ブロック製品の認知拡大を図ってきた」と説明。加えて「宇都宮大学との連携のもと、コラボレーションプフェア等への参加も

進んでいる」とした。また、防草ブロックが組合指定登録製品（TOCC製品）として承認され、触れ、「道路製品をはじめ、擁壁などにも製品展開を広がっていききたい。新たな会員社を得たことを追い風に、防草ブロックを通じた地域インフラの整備や安全なまちづくりを加速したい」と今後の工業会活動に意欲を示した。

同工業会は昨年度、県土木事務所へのキャラバン営業を中心に、防草ブロックの販促活動を展開した。また宇都宮大学主催の展示・講演イベント「コラボレーションプフェア」にも参加し、除草作業のコストを削減する観点から、防草効果のあるコンクリート製品に境界を曖昧にしていると指摘。道路分野での試験施工にも着手した」と報告した。

同工業会は昨年度、県土木事務所へのキャラバン営業を中心に、防草ブロックの販促活動を展開した。また宇都宮大学主催の展示・講演イベント「コラボレーションプフェア」にも参加し、除草作業のコストを削減する観点から、防草効果のあるコンクリート製品に境界を曖昧にしていると指摘。道路分野での試験施工にも着手した」と報告した。

同工業会は昨年度、県土木事務所へのキャラバン営業を中心に、防草ブロックの販促活動を展開した。また宇都宮大学主催の展示・講演イベント「コラボレーションプフェア」にも参加し、除草作業のコストを削減する観点から、防草効果のあるコンクリート製品に境界を曖昧にしていると指摘。道路分野での試験施工にも着手した」と報告した。

同工業会は昨年度、県土木事務所へのキャラバン営業を中心に、防草ブロックの販促活動を展開した。また宇都宮大学主催の展示・講演イベント「コラボレーションプフェア」にも参加し、除草作業のコストを削減する観点から、防草効果のあるコンクリート製品に境界を曖昧にしていると指摘。道路分野での試験施工にも着手した」と報告した。

東日本セメント製品工組賀詞交歓会

東日本セメント製品工業（東京都千代田区）で令和8年新年賀詞交歓会を開催した。

賀詞交歓会では、東日本セメント製品工業の代表者が、新年の挨拶を述べ、今後の活動について話した。

賀詞交歓会では、東日本セメント製品工業の代表者が、新年の挨拶を述べ、今後の活動について話した。



視。草刈りを「ある程度生やしてから刈るのは、刈るは、今年の特別な仕事を作っているような状態で非効率」と指摘。防草ブロック工業会が取り組む「雑草を予防する」という考え方は、慣例的な維持管理システムそのものを転換し得る重要な技術であり、行政・市民に認知され普及していくことを期待した。